

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画の概要 (H25年3月)

<石巻市>

計画策定の背景・目的

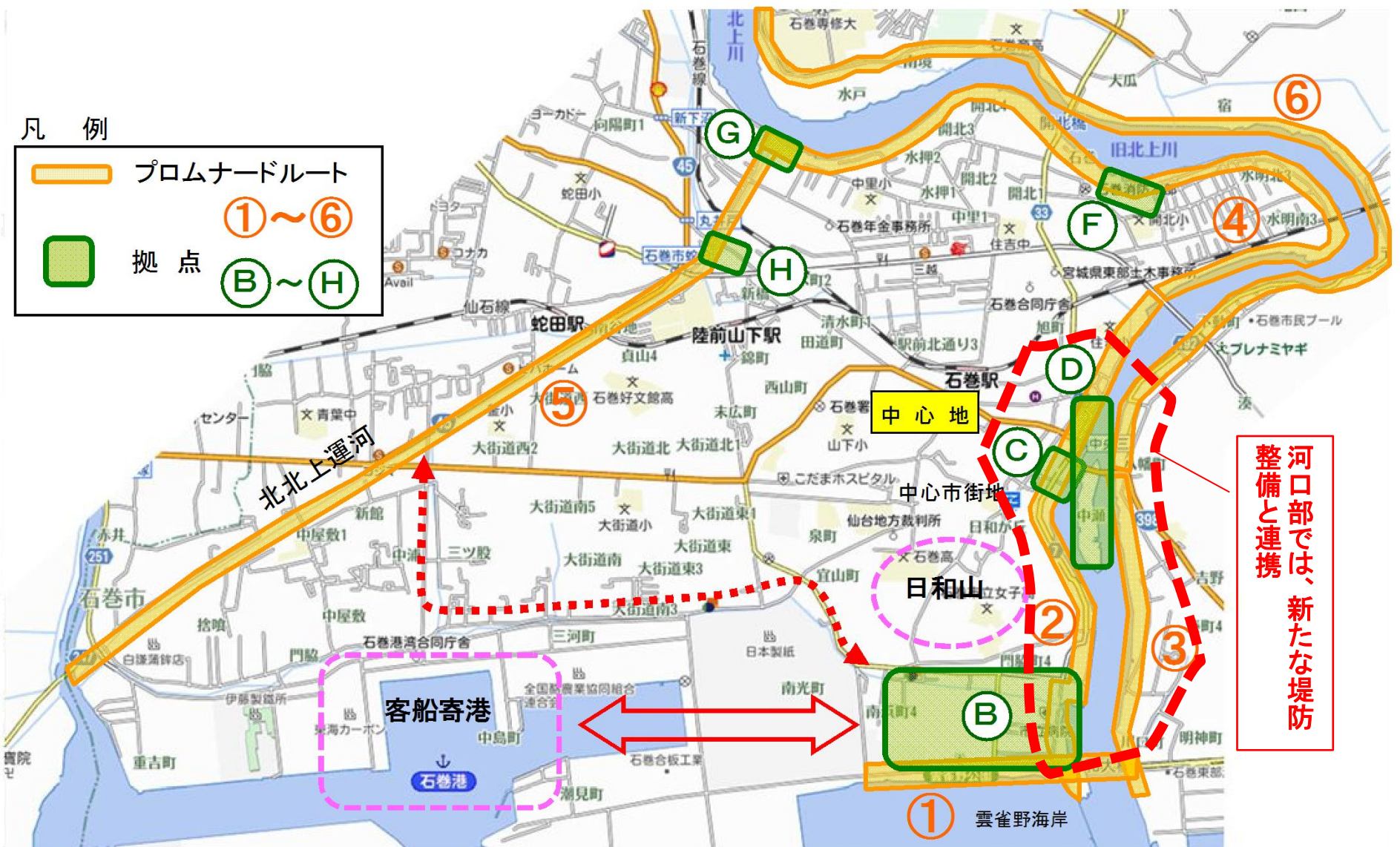
- ◆ 石巻市は、川湊として発展してきた街であり、大震災からの復興にあたって、水辺と親しみながら人々が集い、交流し、まちが賑わいを取り戻す街づくりが不可欠。
- ◆ まちの中心部を囲むルートと拠点を配置、河川堤防を活かした整備等で、まちづくりを行う計画。

- 悠々とした流れを感じる旧北上川
- 近代日本開拓の息吹を感じる北北上運河(貞山運河)
- 潮風を感じ往来する船舶を眺められる雲雀野海岸
- 水運で栄えた石巻の顔、各所に点在する観光資源

これらを一体的に活用し、河川や水辺を活かしたまちづくりを目指す。

- ① 市民や観光客が気軽に水辺を楽しみながら、石巻湊の歴史・文化等を知る。
- ② 将来を担う子供たちに旧北上川と石巻市の発展の関わりを学び知ってもらう。
- ③ 人々の憩いと健康の増進。
- ④ 中心市街地に賑わいを取り戻し、観光振興などを期待。

●いしのまき水辺の緑のプロムナード計画 全体図 (H25年3月)



※ H23年2月計画策定直後、東日本大震災が発生。
 上図は石巻市震災復興基本計画に基づく土地利用等を踏まえた、一部見直し(H25年3月)後の計画全体図。
 ※ 拠点AとEは、計画見直しの中で、拠点Bに機能を集約し、欠番となっている。

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画（抜粋）

— 河川堤防を活かしたまちづくりの整備イメージ —

ルート
2 いにしへの石巻湊と賑わいを訪ねる
「旧北上川と石巻湊ルート」

※以下の内容はプロムナード計画の整備イメージ抜粋であり、関連事業については、今後の検討により変更があり得ます。

ルートイメージ

- 安全管理のため転落防止柵を設置
- 距離標を設置して現在位置がわかり、また歩く目安となるよう配慮
- 夜間でも通行可能なよう等間隔に照明を設置（ライトアップ）
- ※もし人が落ちた時に上がつてこられるよう梯子や浮環を等間隔で設置
- ポイントに行きやすいよう階段やスロープを設置
- 部分的に追加盛土を行い、植栽・ベンチを設置

護岸イメージ

一部には水辺に触れることができ、昔の石積護岸を思い出すような護岸を設置する

水際の滞留空間イメージ

水際の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置、水辺の変化を持たせる

拠点
C 雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を堪能する
「食彩・感動いしのまき」

拠点
D 川と共に暮らして「かわみなと・石巻」の歴史と文化の伝承
「『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』」を伝えるシンボル空間

拠点イメージ

- 背後地の市街地再開発イメージ
- 緩やかなスロープにより拠点から水辺へのアクセス性を向上
- 建物と堤防をテラスで一体化し、開放感のあるオープンスペースを創出
- 様々なイベント開催などにより観光客を集める
- 広々とした階段に座って川や中瀬の風景を堪能
- 水際部に変化をつけ、オープンカフェやイベント広場として活用する。一部階段を設置しアクセスを向上
- 堤防天端と水際部が散策路となり、視点場を変えながら川の風景を楽しむ

※上図は堤防背後の再開発検討地区から水辺に至るプロムナード計画のイメージであり、今後の検討により変更があり得ます。

堤防と背後地再開発の接続イメージ

例1

プロムナードによる空間の創出

例2

プロムナードによる空間の創出

拠点イメージ

- 住吉公園（雄島）周辺
 - 昔を偲ばせる水辺との繋がりを重視した空間を創出するとともに、「雄島」や「巻石（まきいし）」を再生する。
- 休憩・運動機能、親水機能
 - 水辺に親しみながらゆっくり過ごすことができる場の創出
 - 浅瀬をつくり、水遊びや釣りなどができる場所を再現
- 水面利用機能
 - 中瀬と市街地を結ぶ渡し船や、中瀬一周の周遊コース（ミクルーズ）などが考えられる。
- 歴史・文化の伝承、歴史体験機能
 - 昔の街並みや賑わいを感じさせ、その中で歴史や文化を学べる空間とする。

※堤防や公園、橋等の施設はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

ルート
3 新たに産業と居住集積を考慮した拠点的ルート
「居住と産業が隣接した憩いのルート」

ルートイメージ

- 夜間でも通行可能なよう等間隔に照明を設置（ライトアップ）
- 距離標を設置して現在位置がわかり、また歩く目安となるよう配慮
- 安全管理のため転落防止柵を設置
- 部分的に追加盛土を行い、植栽・ベンチを設置
- ポイントに行きやすいよう階段やスロープを設置
- ※もし人が落ちた時に上がつてこられるよう梯子や浮環を等間隔で設置

連続植栽のイメージ

背後の土地を活用して桜堤や連続する植栽、並木道等により人々の集える空間と景観に配慮

連続する植栽により生み出される空間では屋台など集客のためのスペースとしても活用し、ルートそのものが拠点性を持つよう工夫

水際の滞留空間イメージ

水際の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置、水辺の変化を持たせる

※堤防や護岸等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

5-3 プロムナード拠点 祈念公園と水上交通拠点

拠点
B
拠点テーマ

「鎮魂」「祈り」「震災アーカイブ」「復興支援に対する感謝」及び「離島航路との結節点」「マリナー機能」「客船寄港との連携」等
「鎮魂と祈りと絆の杜／水上交通拠点」

拠点イメージ

■祈念公園

- 震災の記憶を伝承する、鎮魂・祈りの場となる。
- 鎮魂と慰霊のモニュメントや催事の広場、伝承の施設等が考えられる。
- 地域の絆を深める場所として機能するように、イベント広場や、子供も楽しめる施設も必要。
- 潮風に強い樹種の植樹帯などの工夫をする。

■水上交通、水面利用

- 離島航路発着所の復旧と合わせて水辺の拠点整備で機能拡大も可能
- プレジャーボート等を収容するマリナー機能を確保する。
- 停泊する船舶や日和大橋や河口などを眺めるビューポイントとしても楽しめる場所とする。



離島への定期航路の発着所

※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約

※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。



レクリエーション広場でのイベント等



マリナーイメージ



広場とモニュメントのイメージ

(北海道奥尻町 徳洋記念緑地公園)

5-2 雲雀野海岸・日和大橋 プロムナードルート

ルート

1
ルートテーマ

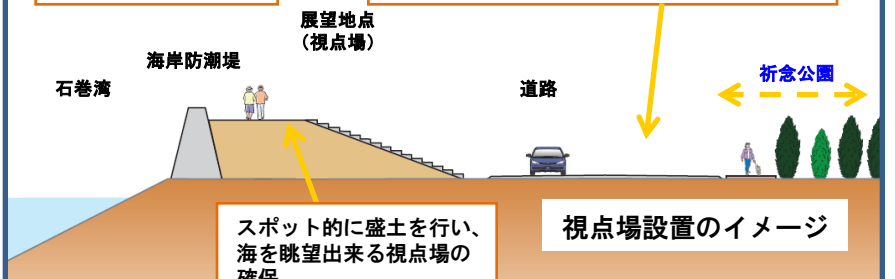
海に思いを馳せる
「太平洋を眺める潮風のルート」

ルートイメージ

- 海岸防潮堤に沿って、海を眺める視点を設ける。
- プロムナードとしてのルートは公園敷地内とも連携させ、海辺を眺める視点は祈念公園とも分担して多様な眺望を創出する。
- 安全を確保しつつ、ルート①と祈念公園の往来もできる設定を考慮

石巻港の客船寄港と連携したルート

公園内にも海を眺める視点を(盛土等)を設置し、ルート①と合わせて多様な眺望を確保



スポット的に盛土を行い、海を眺望出来る視点を確保

視点場設置のイメージ

※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

ベンチまたは東屋を整備

視点場

バリアフリーのスロープ

移動動線

安全確保

7-4 大橋地区 プロムナード拠点

拠点
F
拠点テーマ

水辺のレジャーも楽しめる防災拠点
「旧北上川水辺広場」

拠点イメージ

- 現在、仮設住宅として利用されていることから、今後のまちづくりとの整合を図りながら検討していく。
- 市街地を流れる旧北上川沿いには、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントが少ないため、多目的グラウンド(芝生広場)として子供たちが遊び回れるような空間とする。
- 周囲よりも地盤が高くなることから、洪水等の緊急時には、水害対応の指揮や地域住民の避難場所等として活用可能。また、当該地区は築山や建物等を設置することで、津波来襲時の一次避難所としての活用も可能。
- 石巻大橋から石井閘門までの散策路(堤防上)では木陰が無いから、拠点に植樹して木陰を形成(樹木は水害時に水防対策として活用できる樹木を選定=水防資材)
- 人が集まるための駐車場も併設。

河川防災拠点整備イメージ



大規模災害発生時と平常時における防災拠点の機能

平常時には

- スポーツ、レクリエーションの場
- 河川等に関する情報発信の場
- 地域の方々のコミュニティ施設
- 地域の野外活動の場
- 各種イベントの開催



洪水等の緊急時には

- 水防情報の受発信基地
- 土砂、ブロック等備蓄した資材による緊急復旧の拠点
- 地域住民の緊急避難場所
- 水防司令室
- 水防回待機所
- ヘリポートによる緊急輸送



7-2 旧北上川右岸上流(水明~大橋~運河交流館) プロムナードルート

ルート
4
ルートテーマ

旧北上川の風と風景を楽しむ
「川の風を楽しむルート」

ルートの方向性

- 川の風と風景を楽しみながら、散策、サイクリング等ができるルート
- 堤防上には散策路(サイクリングロード)が整備済みであり、移動途中に休憩し、水辺の景色を眺められるよう配慮
- 旧北上川の右岸河畔でも川とふれあえる河川敷があり、河川敷を使ったイベントなどの利活用が期待できる。

- 河川敷の利活用が推進されるよう、水辺をゆっくり眺められるベンチの増設やPRを推進。また川の生物・植物を調べる子どもを対象とした学習会の開催も検討。



- 旧北上川河畔のルートでも、河川敷がある当ルートの特性を活かし、河川敷での更なる利活用が推進されるよう、公園的な整備を検討。

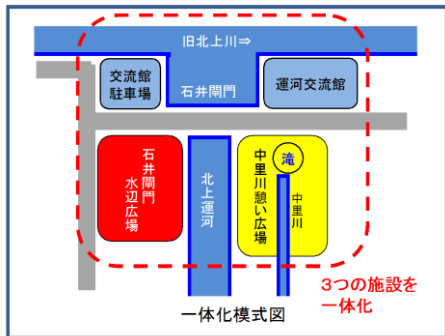
- 開北橋等を利用した対岸のルートとの広域的なネットワークを可能とするため、サイクリングロードや、イベント時の対岸への渡し等の活用について検討。



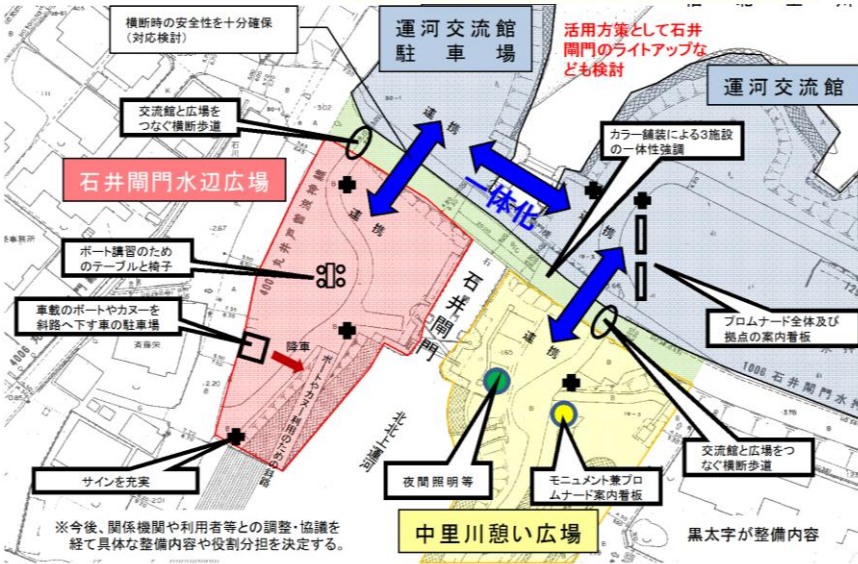
拠点
G
拠点テーマ

川を学び水とふれあう
「水辺の交流広場」

拠点イメージ



●3つの施設をつなぐ横断歩道や案内看板、サイン等の整備を行うことで、3施設が一体的となるよう工夫。また施設の利用促進を図るための駐車場(一次利用)やテーブル・椅子を整備。



拠点
H
拠点テーマ

運河と緑の憩いの空間
「水と緑と子供たちの広場」

拠点の方向性

- 拠点方向性
- 運河と松や桜等の緑に囲まれながら、人々が憩う空間
 - 既に公園が整備されており、散歩や部活動でのランニング、サイクリングなどでの利活用が進んでいる(新たな整備は行わない)。
 - プロムナードとしてもっと使い勝手を良くする工夫を今後検討



散策路の沿道には桜が植樹され、公園のベンチで休みながら桜が眺められる



ランニングしている学生たち



公園にある運河整備事業の看板

ルート
5
ルートテーマ

運河の水辺と緑を楽しむ
「運河ルート」

ルートの方向性

ルート方向性

- 運河の水辺と緑を楽しみながら、ポート等の水面利用や散歩、サイクリングができるルート
- 既に散策路が整備済みであり、これを活用することを基本とする。
- 運河沿いに並ぶ松並木が良い景観であるが、津波により松が枯れていることから、地域と一体となって従前の景観の再生を検討し、ライトアップ等の取り組みを推進する。



震災後も学生が運河を利用してカヌーの練習を行っている



震災後、運河沿いの松の多くが枯れている



運河沿いに散策路が整備され、運河を眺めながらの散歩や、サイクリング、運動などで利活用が図られている

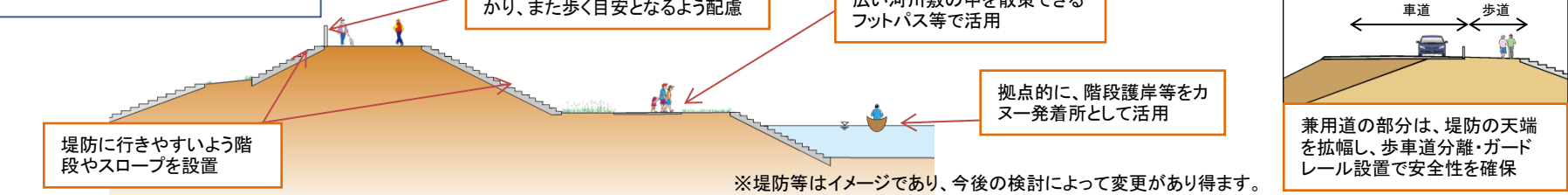


市民団体による北上運河の松並木へのライトアップ(石巻日日新聞提供)

ルート
6
ルートテーマ

開放的な空間の中でスポーツと学びを誘うプロムナード
「スポーツと学びのルート」

ルートイメージ



- ルート方向性
- 対岸の町並みや、背後の田園風景を楽しみながら散歩できるルート(心地よい風を感じながらウォーキングやジョギング、散歩、サイクリングを楽しむ)
 - 石巻専修大学や総合運動公園との連携によるネットワークの拡大と利活用の推進
 - サイクリングやジョギング等の運動の利用を考慮した工夫(距離標や案内板)
 - 一部、水辺利用や水面利用を考慮した工夫(釣りやポート等)

「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」では、プロムナードの利便性、快適性の向上、更には市民に愛される石巻のまちづくり、集いと賑わいを呼ぶための利活用方策の一環としてサイン計画を立案する。

サイン計画の目的

①目的地までの円滑な誘導

地元住民や観光客の人たちが、拠点等への目的地まで円滑に移動できるように誘導する。

②石巻について学ぶ

地元住民や観光客の人たちに、サインを通じて石巻の歴史、文化、産業等について学んでもらい、市民に愛される石巻のまちづくりを目指す。

③楽しさや賑わいを演出し、 来訪者の増大と石巻の地域活性化を図る

利便性を向上させることだけでなく、サインのデザインにイラストやアニメを活用する等、楽しさや賑わいを演出し、来訪者の増大をめざし石巻の地域活性化を図る。

【サインの留意点】

1. **誰もが見やすく、わかりやすいサインとする。**
子どもからお年寄りまで誰もが見やすく(視認性が高く)、わかりやすいサインとする。また、誘導や避難に用いるサインはユニバーサルの観点から日本語、英語及び絵文字等による表示を基本とし、必要に応じて音声案内等を活用する。
2. **周辺景観との調和、融合を図るとともに、石巻らしさを演出する。**
周辺の町並みや自然環境等の景観との調和を図り、情報的確に伝えるとともに、歴史や文化といった石巻らしさを演出する素材、デザインとする。
3. **サインの分類に応じて、サインのデザインを統一させる。**
サインの分類上同じものは、統一したデザインとし、複数のサインが連携することで情報の伝達効果を高める。
4. **市民のみなんで考える。**
市民参加で「石巻のことをよりわかりやすく解説する」サイン作成や設置を検討する。なお、将来に向けて、更新や充実を図っていくよう、継続していく。

サインの分類

サインは、案内、誘導、歴史や文化等の説明、利活用のサインと避難や津波啓発の防災サインを対象とする。

| | 設置の目的 | サインの事例 |
|--------|---|--------|
| 利活用サイン | ①案内サイン ・全体案内(ルート・拠点の説明、トイレ、休憩施設等の説明) ・拠点内の主要施設を案内 ・現在地の表示 | |
| | ②誘導サイン ・観光客をまちの中心部からプロムナードのルートや拠点まで誘導 ・注目スポット等へ誘導 | |
| | ③説明サイン ・歴史的な地域資源を解説する ・プロムナードのルートや拠点周辺の歴史、文化、産業等、更に史跡等の地域資源を解説する | |
| | ④その他 ・海や川の景観を楽しめる場所を示す ・河口からの現在の位置までの距離を示す ・お勧めの散策コースや目的地までの所要時間等を知らせる | |
| 防災サイン | ⑤避難サイン ・津波避難場所や避難経路などを表示 | |
| | ⑥津波啓発サイン ・津波の知識を学習し、危険性を表示 ・過去に來襲した津波の高さを表示 | |

サイン計画について(主な配置案)

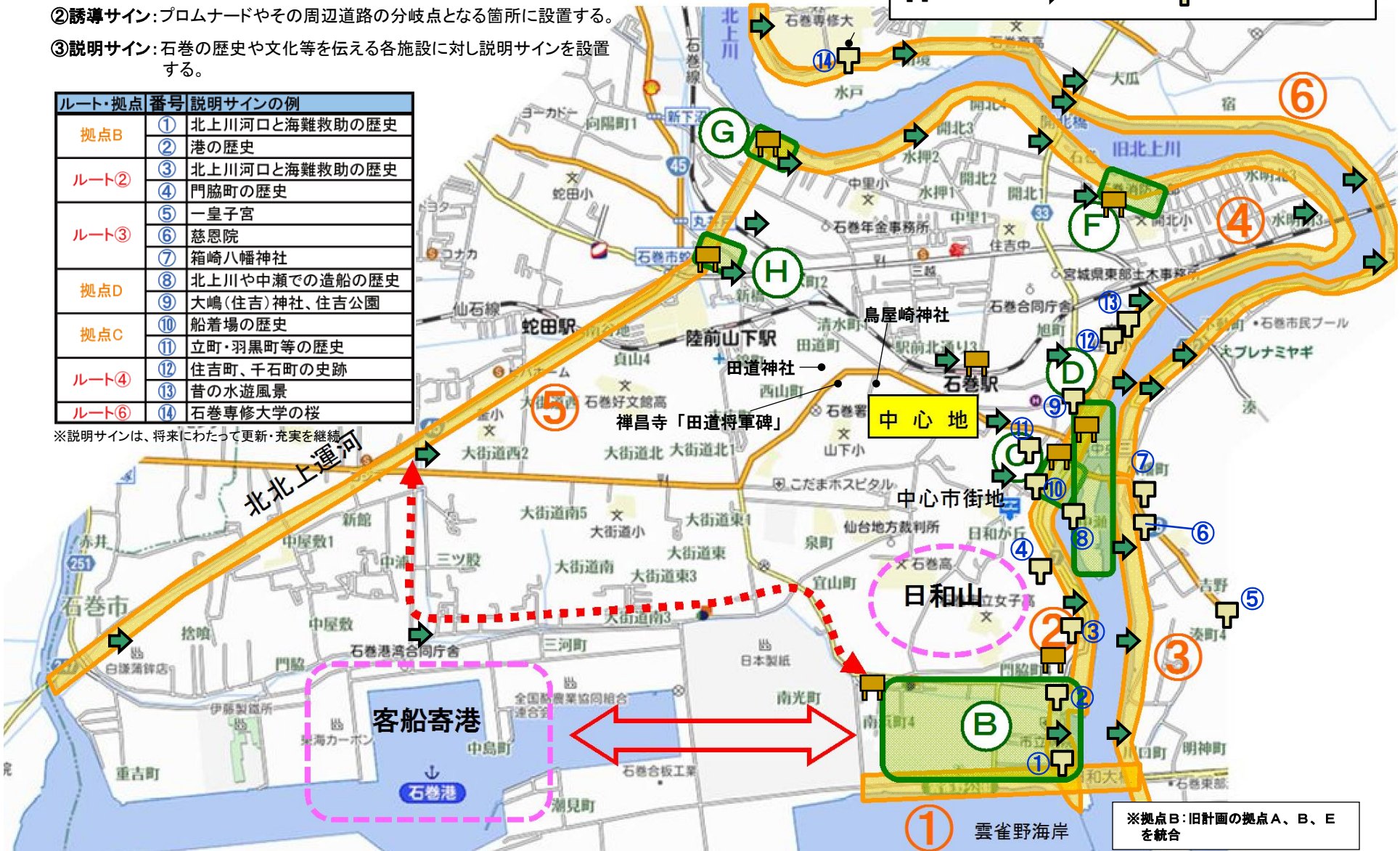
- ①案内サイン: プロムナード全体を記した案内サインは、来訪者の交通の拠点となる石巻駅や、各拠点の要所に設置する。
- ②誘導サイン: プロムナードやその周辺道路の分岐点となる箇所に設置する。
- ③説明サイン: 石巻の歴史や文化等を伝える各施設に対し説明サインを設置する。

【凡例】

- プロムナードルート ①~⑥
- 拠点 B~H
- 案内サイン
- 誘導サイン
- 説明サイン ①~⑭

| ルート・拠点 | 番号 | 説明サインの例 |
|--------|----|---------------|
| 拠点B | ① | 北上川河口と海難救助の歴史 |
| | ② | 港の歴史 |
| ルート② | ③ | 北上川河口と海難救助の歴史 |
| | ④ | 門脇町の歴史 |
| ルート③ | ⑤ | 一皇子宮 |
| | ⑥ | 慈恩院 |
| 拠点D | ⑦ | 箱崎八幡神社 |
| | ⑧ | 北上川や中瀬での造船の歴史 |
| 拠点C | ⑨ | 大嶋(住吉)神社、住吉公園 |
| | ⑩ | 船着場の歴史 |
| ルート④ | ⑪ | 立町・羽黒町等の歴史 |
| | ⑫ | 住吉町、千石町の史跡 |
| ルート⑥ | ⑬ | 昔の水遊風景 |
| | ⑭ | 石巻専修大学の桜 |

※説明サインは、将来にわたって更新・充実を継続



※拠点B: 旧計画の拠点A、B、Eを統合

●サインプロジェクト（仮称）

サインプロジェクト（仮称）は、市民、行政、学識経験者など「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」に係る人たちの連携と協働により、サインの検討から設置を行う。また、設置後のサインの更新や充実を図る活動を継続的に行うことを想定する、市民参加型のプロジェクトとする。

▼サインプロジェクト（仮称）の連携・協働イメージ



●サインプロジェクトの活動方針（案）

サインプロジェクトは、以下の3つの方針で活動する。

方針① 石巻の歴史や文化・産業を、観光客等の外来者に分かりやすく説明するとともに、市民にとっても、学習しながら古き良き石巻の姿に思いを馳せることのできるサインの検討を行う。

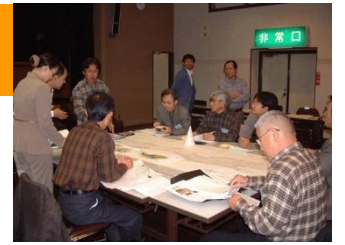
方針② 活動を通じて、石巻の歴史・文化の伝承の担い手を育成する。

方針③ 参加者が楽しみながら活動し、将来にわたって継続する。

活動内容（案）

①ワークショップ等によるサインの検討

・ワークショップ等を開催し、石巻の歴史、文化、産業等の解説や、個々の施設の説明等を市民との協働により検討する。



▲ワークショップの事例写真

②市民によるサイン検討と設置

・サインの配設置や製作、設置など、実施に向けた検討を行う。
・例えば、製作から設置までを市民自らが実施するなど考えられる。



▲説明看板のイメージ
市民視点でわかりやすく、深みのある説明文を作成

③プロムナードマップの作成

・市街地の観光施設や魅力あるポイント、トイレ、食事処、バス停留所、回遊する散策路などを分かりやすく記したマップを作成する。



▲フットパスのイメージ（最上川朝日地区）

④プロジェクトのフォローアップ

・分かりやすさや見やすさ等について、来訪者のヒアリングやアンケート等を実施しながら検証し、継続的にサインの内容更新や設置箇所の追加、充実を図っていく。



▲イベント風景の事例写真（遠賀川）

プロムナードの利活用の促進に向けた取り組み（案）

～体制・基盤づくり～

産、学、官、民が連携したプロムナード利活用促進体制の確立

プロムナード利活用促進協議会（仮称）を設立するなど、産、学、官、民が連携できる体制を確立し、利活用促進に向けた様々な取り組みを実施していく。



▲協議会風景イメージ
第1回プロムナード計画懇談会（平成22年5月開催）

サインプロジェクト（仮称）

サインプロジェクト（仮称）は、市民、行政、学識経験者など「いしのまき水辺の緑のプロムナード計画」に係る人たちの連携と協働により、サインの検討から設置を行う。また、設置後のサインの更新や充実を図る活動を将来にわたり継続的に、市民参加型のプロジェクトとする。



▲ワークショップのイメージ

イベント施設やオープンカフェの設置

平成23年度の河川敷地の占用に関する規制緩和を活用し、民間事業者による河川敷地でのイベント施設やオープンカフェを設置し、水辺空間の賑わいを創出する。



▲広島京橋川の事例写真

～歴史・文化の学習と観光振興～

プロムナードツアーの企画

プロムナードの各拠点やルートの特性を活かしたツアーをNPOやボランティア、大学などとの連携により企画、ツアーの実施を重ねることにより、より市民や観光客に満足いただけるものにレベルを高めていく。また水辺や川と親しむ各種イベントを開催し、来訪者の増大を図る。



▲イベント事例写真（海軍公園でのイベント風景）



▲観光ツアーイメージ
（北上川石巻湊公開講座による歴史探訪）

石巻の歴史・文化を学ぶ舟運の復活

昔の石巻港の歴史・文化を感じながら、来訪者の回遊、移動の足となる舟運を復活させる。



▲水上交通のイメージ

観光ガイド等の育成

石巻の歴史文化に詳しい石巻マスターを発掘し、ボランティアガイド等の育成を長期的な事業として行う。



▲第8回北上川石巻湊古公開講座にて、船魂神社を探訪

観光パンフレット、マップの発行

来訪者へのPRとプロムナード利活用の利便性向上を図るため、プロムナードを紹介した観光パンフレット、マップを発行する。



▲フットパスのイメージ（最上川朝日地区）

～利便性の向上・教育～

ITの活用による情報提供

インターネットホームページを立ち上げ、各種情報発信を行うとともに、モバイル向けの情報提供を行う。



▲携帯でアクセス
携帯で読み取るQRコードを施設に配置

さらに、各施設に携帯電話で読み込めるQRコードを配置し、携帯電話からアクセスしたり、スマートフォン用のマップに各種情報を盛り込み、史跡や各種施設の詳しい紹介やガイドを行うことで、プロムナード散策の楽しみの向上や施設利用の推進を図る。

バリアフリー・レンタルサイクル導入による利便性の向上

プロムナード計画に基づき整備するところにおいて、誰でも使いやすいバリアフリー化を図る。また、レンタルサイクルを導入し、プロムナードのサイクリング利用を推進する。



▲水辺のバリアフリーのイメージ



▲サイクリングでの水辺散策

河川環境及び防災学習の推進

小中学校と行政、市民が連携して、石巻の特性を活かした教材による環境教育や防災教育を推進する。



▲水生生物調査風景